

女性が輝く 京都企業

6

たち吉



店舗展開する商品と販促立案について議論する女性社員

老舗再生の鍵は女性目線にあり！ 女性パワーが活気を生み、未来をつくる

京都を代表する陶磁器販売の老舗のひとつである株式会社たち吉が、新たなスタートを切ったのは昨年4月1日。その最前線で指揮を執ることになった渡邊信夫社長は、「我々の商品のメインターゲットは女性。日本の窯業を守り育てる意味でも、女性目線でのシーン提案をコアにした戦略再構築が必須と考えました」と語る。着任までに全スタッフと面接、さらに新体制スタートから半年かけて、社員とのコミュニケーションに努め、一人ひとりの個性と能力を把握した上で、今まで部署をほぼ異動することのなかった女性社員も人事異動の対象とし、大胆な人事を敢行した。「旧体制で営業補助や事務を行っていた女性の中にも、ポテンシャルを感じる優秀な社員がたくさんいました。彼女らが主体となって動き始めれば、必ず会社は生まれ変わると確信しました」。

西日本営業部の課長として対百貨店営業のマネジメントに携わっている浦本香世さんも期待を担った一人。「私の場合ポジションはそのままですが、働き方を変えたいことを求められ、仕事のスタイルを見つめ直しました。

意識したのは、管理者として全体を見渡す視野と、数字を含むシビアな責任感です」。トップと意識を共有することで、勤続20年以上のキャリアは見事に花開いた。「今では百貨店営業、西のエースです」と満足げな渡邊社長の言葉に「毎日必死ですよ」とはにかむ。

やみくもに商品を勧める営業ではなく、お客様との共感を育むソリューション営業。エンドユーザーのライフスタイルに寄り添う商品開発や広告宣伝、プロモーション。新たに示した方向性への女性スタッフの対応力は高く、そのしなやかな活躍が老舗再生への大きな原動力となっている。海外市場を見据えて、京都商工会議所と京都市が実施する「Kyoto Contemporary」に参画し、1月にはパリで開催された「メゾン・エ・オブジェ」に出展。インバウンド消費も増えており、市場は拡大しつつある。「女性の感性がますます重要になっている。今後は、販売の第一線を担うパートの女性たちを能力に応じて社員登用するなど、活躍できる環境を整えていきたい」と渡邊社長。女性活躍のフィールドはまだまだ広がり続ける。



西日本営業部課長の浦本香世さん(左)、代表取締役社長の渡邊信夫さん



株式会社たち吉

代表者/渡邊 信夫
住 所/京都市下京区四条通富小路角立売東町21
TEL / 075-211-3141
URL / <http://www.tachikichi.co.jp>
事業内容/和洋陶磁器の卸・小売

従業員/303名(男性71名、女性232名)
そのうち、正社員75名(女性24名)